

新宮山彦ぐるーぶ第1967回

前鬼の里への古道(前鬼道)の牛抱坂く牛抱峠く

前鬼林道ゲート間の踏査整備

◇実施日：2018年03月18日(日) 晴後曇り

◇参加者：豊嶋 寛、川島 功、濱野兼吉、上村洋司・和美、

(生熊千満子、畑林清子、勝山滉紀(豊嶋氏の孫)、

竹中卓治、高階美根子、瀧本昭太郎、佐藤優美子、

梶野照雄、大門健一。 14名。

新宮組は川島車に生熊・畑林・濱野、豊嶋車には上村夫妻と孫の勝山君が同乗し、6時50分に出発した。

国道168号線沿いの山々には山桜が満開で、この桜が約10年ぶりの新種「クマノザクラ」ではないかと、車内で話題になる。山桜は4月中旬に咲くらしいから、今咲いているのがクマノザクラではないか、ということになる。

前鬼林道入口に8時5分過ぎに着くと、西宮市の大門さんが待機していて、午前4時過ぎに出発したとのこと。尾鷲・海山の高階・竹中さんも先着。程なく和歌山市・瀧本車(奈良市・佐藤さん同乗)、集合時間5分前の8時15分に堺市・梶野さんが到着。

全員揃ったところで川島代表が本日の「牛抱坂」「牛抱峠」踏査の意義を説明し、是非かつての「前鬼道」を復活させたいと昨年2回踏査し、今回歩き通せる様に山道を整備したいとのこと。

登山口に向け前鬼林道を5台(川島・豊嶋・竹中・瀧本・梶野)で出発。西の谷を渡り、コンクリート吹付け擁壁の尾根を回り込むと山側に石垣が積まれた地点が登山口である。運転手を除き下車し、下山場所の前鬼林道ゲートPに4台デポし、竹中さんの車で引き返す。その間に登る準備をしていたところ、畑林さんのザックにヒルが這っているのを見つけ大騒動。まだ3月だから早いと思っていたがもう活動を始めている。特に前鬼周辺はヒルが多

い。これからは、虫除けスプレーや塩が必需品となる。



牛抱坂登山口で身支度



牛抱坂へと登る



今回踏査整備する牛抱坂く牛抱峠は、1959年(昭和34)、1960(昭和35)年頃に前鬼林道が完成するまで、生活道として前鬼に向かう人々が通っていた。あの釈迦ヶ岳に鎮座する釈迦如来立像を強力・岡田雅行(通称オニ雅)が担いで登った道である。

前鬼にはかつて2町歩の田畑と約200人近くの人が暮らしていたらしい。これだけの人々が暮らせるだけの賑わいが当時の前鬼にあり、人と物が行き交っていたのだろう。

最初から急峻な登りがP903mまで、標高差約600m^ト続く。周りを見渡す余裕などない。地図の等高線はびっしり狭く込んでいる。約1時間2回目の休憩を過ぎた頃ここまでが「牛抱坂」である説明をうけた。私はこの急峻な坂道に牛を抱いて歩いたのだろうか^トと訪ねると、梶野さんは「子牛だ」と答えてくれたが、子牛だとしても数十^キはあるだろうから大変だったと想像できる。ちなみに今日の私のザックの重さはせいぜい7^キ8^キ程度である。

尾根下を通り抜けると尾根の急登となり、P903mの手前ぐらいから緩やかになり、獣除けネット沿いに所々岩稜の尾根を辿るが、灌木が遮りチェンソー・手鋸で切除しながら進む。冬枯れの本々の間から近隣の山々が望めるようになる。



牛抱坂の急登



支尾根合流地点



P903m 傍の枝切除



大日岳く釈迦ヶ岳く孔雀岳



小休止後の出発準備



尾根下を捲く



P903m への急登！



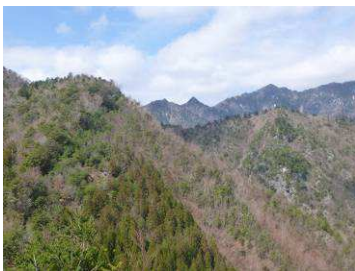
遮る枝を切除

展望が開けると何となく周りを見る余裕もでき、身体も慣れ少し汗ばみ楽になってくる。

P903m 傍の3回目の休憩をした岩稜の尾根は、展望が良く大日岳く釈迦ヶ岳く五百羅漢く孔雀岳等の大峯奥駈道の稜線がよく見え、稜線には少し雪が残っている。手前の尾根鞍部が牛抱峠とのこと。



P903m より鞍部へ下る



真中の尾根鞍部が牛抱峠



チェーンソーの出席

P903m を越えた鞍部より前回は、尾根を捲く様に古道沿いに辿ったが、斜面の崩落で進めず尾根に登った事から、尾根沿いの獣除けネットに沿って辿り、尾根の途中でネットを越えて尾根を辿る。尾根の高野槇や馬酔木等の枝は、チェーンソー(川島)と上村さんの剪定バサミが大活躍。

今回は国土地理院(2万5千分の1)地図にGPS、それにスマホの電子地図を駆使しての踏査。私たちが通過しているコースは、古道より数十以上を通過しているらしいが、40年以上も前の地

形での地図だけに、地図上の古道(前鬼道)も形跡らしきものはあるが、現況の確認は非常に難しい。
尾根の小P980m地点に出ると視界が開け、歩きやすくなり、眼前に牛抱峠がよく見える場所で昼食。



小P980m尾根で昼食



昼食後の出発前

昼食後、牛抱峠に向かって出発。昨年、沖崎・山川さん達が、斜面崩落箇所上部の斜面を横捲いたので、1030m地点近くまで尾根を登り、大タワ谷源流部の斜面をトラバースして牛抱峠へのネットのある尾根へ。尾根はシヤクナゲ等で進み辛く、切除しながら辿ったこの間のルートに、ピンクテープの目印を付けた。



1030m 地点の尾根より大タワ谷源流部を横切る 牛抱峠手前のヒメシヤラ

梶野さんは、古道に近い場所を単独で辿り、牛抱峠を目指して先着したが、斜面崩落により忠実に古道は辿れないとのこと。担ぎ上げた「牛抱峠・960m」の標識を設置して待機。
尾根が緩やかになるとヒメシヤラ林があり、材搬出のワイヤーロープ等の廃機材があり歩きやすく古道に出る。直ぐに牛抱峠で全員が合流し記念撮影。傍には乾さんが付けた白い峠標識がある。



本日の参加者(牛抱峠にて)

ウリネ谷源流部

ここからはっきりした古道があり、ウリネ谷に向かって下り、ウリネ谷源流部を渡って右上に登る。此処からは、梶野さんの踏査では斜面崩落で古道沿いの道が見当たらず、昨年同様に獣除けネットに沿った山道を辿って、黒谷の頭(黒谷峠)山頂から張り出した休場ノ尾に向ってトラバース。足元が崩れやすく非常に不安定。一番若い勝山君もこんな危険な場所があるとは思っていなかったらしく悪戦苦闘している。佐藤さんが後からアドバイスしながら無事通過。やはり体力や若さより経験がものいう。
足元が崩れやすく不安定なものと、手を添える場所がなく、大門さんが横前に進むことが出来なくなり、瀧本さんが補助ザイルを出して、ザイルロープを手がかりになんとか無事通過。やっと休場ノ尾に到着。牛抱峠を出発して約1時間。視界が少し開け、左

手下に林間から前鬼の里が見えた。



ウリネ谷を渡り斜上



獣除けネット沿いのトラバース道



ここからも急峻な尾根の下りが続く、手の届く範囲に雑木があるので、傍らの木々に掴まりながら下る。去年、小池の宿から黒谷峠の山頂を越えて、この尾根を下ったことを思い出す。

前鬼道が交差する所まで下り、川島さんより「これが先ほど渡った谷からの古道で、いまは寸断されているが、沢沿いからここまで続き、ここから前鬼までも通じていた」と説明を受ける。



急峻な休場ノ尾根を下る

少し下ると林道が見えゴールのデポした駐車場に到着した。

休憩を含め約6時間30分。歩行時間は6時間に満たないが、休憩時間も少なく、急峻な上り下りの連続と不安定なトラバースで随分時間が掛かったが、私の万歩計は7000歩。時間の割には歩いていない。地図で距離を見てもそれ程長い距離(約6km)ではないが、歩きごたえのある行程であった。彼岸のお供えに高野槇も十分採れた。しんどかったけど充分満足のいく山行であった。



記念撮影!

池郷林道ゲート前駐車場に無事下山!
60年前多くの人々が通った前鬼への古道。国土地理院の地図、GPSとデジタル地図を重ねながらの踏査。今回の踏査整備でもまだまだ十分とは言えない。安全面も含め整備には、もっときめ細やかな調査と整備時間と労力が必要である。

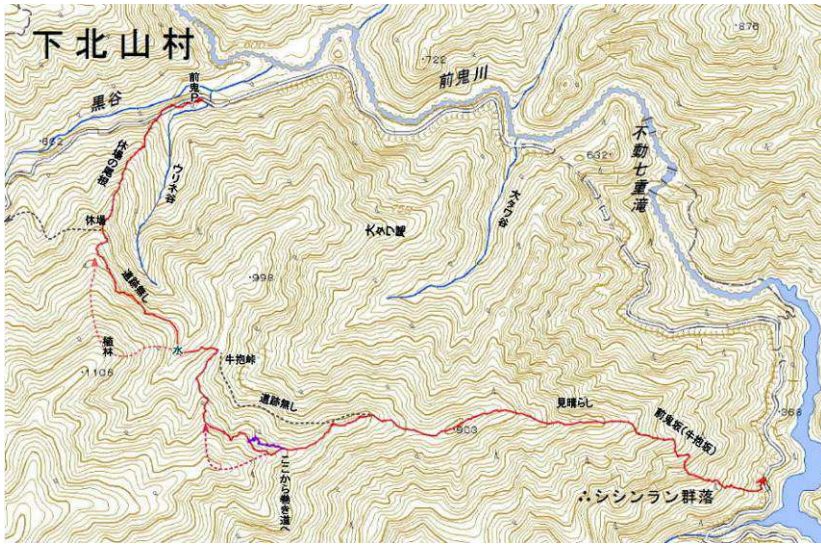


前鬼口バス停で終礼

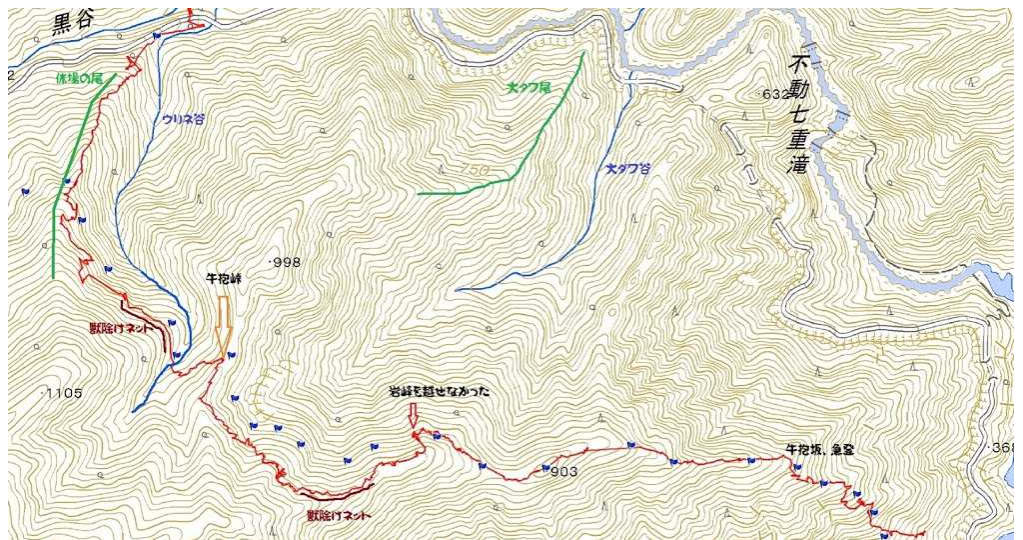
最後に前鬼林道口に戻り、川島代表より今日の成果と今後の課題、来週の行仙宿から21世紀の森までの点検巡視の案内と参加要請を受け、16時過ぎに解散し、それぞれの家路へ。

行動タイム

8:05前鬼口バス停8:15↓池郷林道ゲートに車回送↓8:50牛抱坂
 登山口8:55→9:55尾根合流点10:05→10:55「P903m」11:15→11:55
 「980mの尾根」(昼食)12:25→1030m地点より源流部トラバース
 12:35→13:30牛抱峠13:45→ウリ根谷源流14:00→14:35休場の尾
 根→15:30前鬼林道ゲート15:40→15:55前鬼口バス停16:05(解
 散)。
 (記：濱野、写真：梶野・瀧本・川島)



大タワ谷の源流部を辿ったルート図「佐藤さん作図」



前鬼道に近い地点を辿ったルート図「梶野さん作図」

2017年03月25日踏査(第1920回のぐるーぷ行事報告書参照)

